

手軽に朝ごはん

簡単！野菜たっぷり料理レシピコンテスト開催

11月4日、保健センターで「朝食に家族で食べたい野菜たっぷり料理」をテーマにしたレシピコンテストが開催されました。当日は、書類審査を通過した6人のかたが、レシピの料理を実際に調理し、調理時間や盛り付け、野菜がたっぷり入っているかなどの項目によって審査を受けました。

参加者の皆さんは、調理時間を短くするコツやバリエーションを広げる方法をアピール。審査員の皆さんはその創意工夫に、一つひとつメモを取りながら興味深く耳を傾けていました。

今回出品されたレシピは町ホームページに掲載されていますので、どうぞ参考にしてください。



▲忙しい朝だからこそ、大切な家族にはきちんと食事を食べさせてあげたい…参加者の思いが詰まった充実朝ごはんレシピ。審査するのめがかりです。

いざという時できること、考えながら

大河原町総合防災訓練

東日本大震災を教訓にした「総合防災訓練」が11月9日、大河原中学校や金ヶ瀬中学校などで開催されました。

訓練は震度6弱の地震が発生したという想定で実施されました。午前9時に災害発生を知らせるサイレンが響きわたると、メイン会場の大中グラウンドには行政区ごとにまとまった参加者が続々と集まり、なかには負傷者役のかたを担架や車いすで運ぶ姿も見られました。

その後は初期消火訓練や煙中通過訓練、パケツリレーなどが行われ、参加した皆さんは真剣な表情でそれぞれの訓練に取り組んでいました。



毛布などで手作りした担架で負傷者を運ぶ訓練。

▶消火器の説明を真剣に聞く参加者の皆さん。



▲大中生も受付係で参加。初めてなので緊張したそうですが、きちんと役割を果たしました。

▶誕生日ケーキのろうそくの火を消すいし乃さん。



▶伊勢町長の手をしっかりと握り返すいし乃さん。



長寿は普段からの心掛け

100歳おめでとうございます

最上いし乃さん（保料区）が、10月21日に100歳の誕生日を迎え、町からお祝いが贈られました。

お風呂で歌を歌ったり、おしゃれをするのが好きといういし乃さん。当日は、入所している施設の仲間から誕生日ケーキやプレゼントが贈られたり、職員のかたから事前に練習していたという「すずめ踊り」でお祝いされたりして、とてもうれしそうでした。

また、上町1区の水戸とらよさんも10月23日に100歳となり、お祝いを町から贈られました。

毎日の散歩を欠かさず、また手先が器用で身の回りの物は自分で作ってしまうほどお元気なとらよさん。夫の慶雄さん（故人）も100歳を超えてお元気だったかたで、夫婦そろって100歳を達成できたことになり。その秘けつは「あんまりうまいものばかり食べないこと、無理しないこと」と何でもない事のように教えていただきました。

5年間の労作を出版

「町史こぼればなし」が本になりました

広報おおがわら紙上で平成21年から26年まで連載された「町史こぼればなし」を、筆者の及川義行さん（右写真・町文化財保護委員）が「伝えたいふるさとの心～支え合う人たち」としてまとめ、教育委員会などに寄贈しました。

「町史にも載らないような小さな出来事（こぼればなし）は、今書き残さないと忘れられてしまうという危機感がありました。若い人にもぜひ読んでほしい」と及川さん。駅前図書館でも貸し出していますので、ぜひご覧ください。



▲希望者には協力金1,000円で頒布しています。詳しくは生涯学習課（☎53-2758）か及川さんの自宅（☎53-4415）まで。

安心生活見守りに関する協定締結式



▲横山代表（右）と伊勢町長。

地域の安全に気を配る、新聞配達

安心生活見守りに関する協定が結ばれました

10月23日、町と河北新報大河原販売店の横山新聞店は、配達員が高齢者や障がい者などの自宅に訪問した際に異変に気づいた場合、町に通報する「安心生活見守りに関する協定」を結びました。

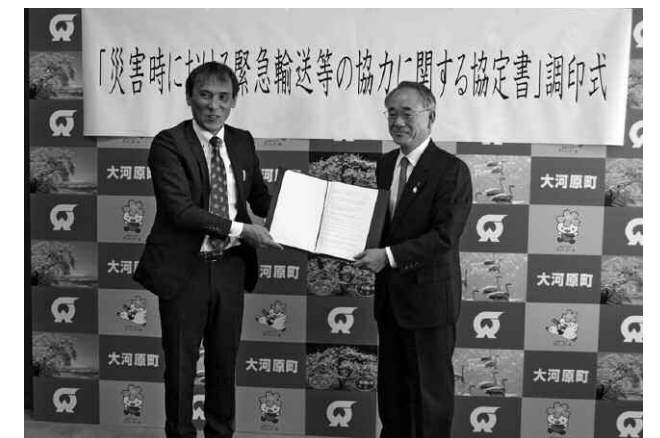
高齢化社会の進展で、孤独死などが取りざたされるなか、新聞を毎日配る配達員の協力は心強いものです。地域のすべての人々が目配りし、高齢者を孤立から守りましょう。

災害時の輸送の備え

緊急輸送等の協力に関する協定が結ばれました

11月6日、町と有限会社中央タクシーは「災害時における緊急輸送等の協力に関する協定書」を結びました。協力の主な内容は要配慮者（高齢者・障がい者など）の輸送業務・物資の運送業務などです。

東日本大震災の際、同社では糖尿病の患者のかたの病院輸送や被害情報の収集を行いました。持病を抱えたかたにとっては、災害時の交通手段の確保は命にかかわるもの。いざというときの頼りになる存在として期待されます。



▲岡崎社長（左）と伊勢町長。